

臼杵干潟アサリ復活プロジェクト 活動報告書～概要版～

ありたい姿

市民参加型のアサリ資源回復、環境意識醸成、交流人口の創出

現状・課題

1 現状・課題

- 臼杵市のアサリ漁獲量は大幅な減少
1980年(S55) 53トン→ 2024年(R6) 0トン(大分県は4トン)
※大分県全盛期 1985年(S60) 27,646トン
- ア) 県農林水産研究センター・杵築市のアサリ資源回復の取組
地元天然稚貝の確保育成 → 推定資源量 20トンまで増加
- イ) 臼杵干潟 2012年から潮干狩り中止(水産・観光資源喪失)
環境学習の機会、観光資源の喪失
*教育現場 ESD(持続可能な社会の創り手を育む教育)

R3.5月 網袋設置



2 プロジェクト実施前までの取組

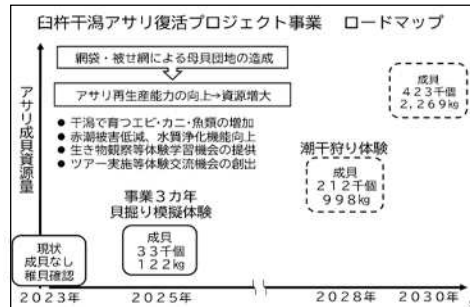
- 臼杵干潟では春に稚貝が発生、食害・波浪等で消失
→R3～4年度 臼杵干潟に網袋を設置
稚貝の採集と保護・育成効果を確認

【地域の声】 ※R5当初資料より

- 「いつになったら潮干狩りできるの？」(市内外からの問合せ多数)
「アサリが復活すれば、餌とする魚の増加も期待できる」(漁業者)

期待される効果・ロードマップ

- 臼杵干潟における天然のアサリ資源・潮干狩りの復活
- 干潟の生物多様性や水質浄化機能への理解、保全意識の醸成
- 交流・関係人口の創出による活動の持続化



取組・判明したこと (R5～R7)

1 臼杵干潟における天然アサリの回復の取組

- アサリの稚貝を入れた網袋、被覆網を設置。稚貝の保護・育成を促進し資源量確保に向けた活動。
→5年以上前の被覆網下に平均殻長35.9mmのアサリ421個を確認(保護すれば育つ。資源回復の可能性の確認)
→アサリ稚貝の高密度域の特定と網袋中の適正密度の特定
→網袋で約6割、被覆網で約4割の生残を確認
→施設の流出リスクの低い諏訪側日側を活動主体に
- * 臼杵らしさのある飼育実験の実施
市内の醸造会社が製造する活性汚泥由来の肥料を用いた、アサリの成長促進実験の実施
- * 人工種苗を用いた飼育実験
天然種苗の確保が難しい場合を想定し人工種苗による飼育実験を実施
- * タイムラプスカメラを用いた食害生物特定
食害生物(クロダイ)を特定しアサリ保護手法を絞る

R7.5月 網袋大規模設置



R7.8月 被覆網大規模設置



2 地域や多様な主体による干潟再生の取組促進

- 海洋科学高校等教育機関との協働
 - 稚貝分布や生育調査、移植活動等への参加協力
 - 小学生を対象とした体験学習機会提供(SDGsツアーの実施)
 - 日本文理大学による干潟の利活用の検討
- うすき水産シンポジウムの開催
 - 地域住民への活動の周知啓発

特に報告する事項

- R7年度の保護活動で、網袋育成時：約76.1kg(12.2万個)だったアサリが、被覆網移植後：約989kg(43.7万個)にまで増加。『保護すれば育つ!』
- 網袋、被覆網等の**保護なしでの天然アサリを用いた潮干狩りは困難**

※上記の結果は推定値であり、必ず上記の量のアサリが獲れるとは限りません。引き続き臼杵市での潮干狩りは「禁止」です。